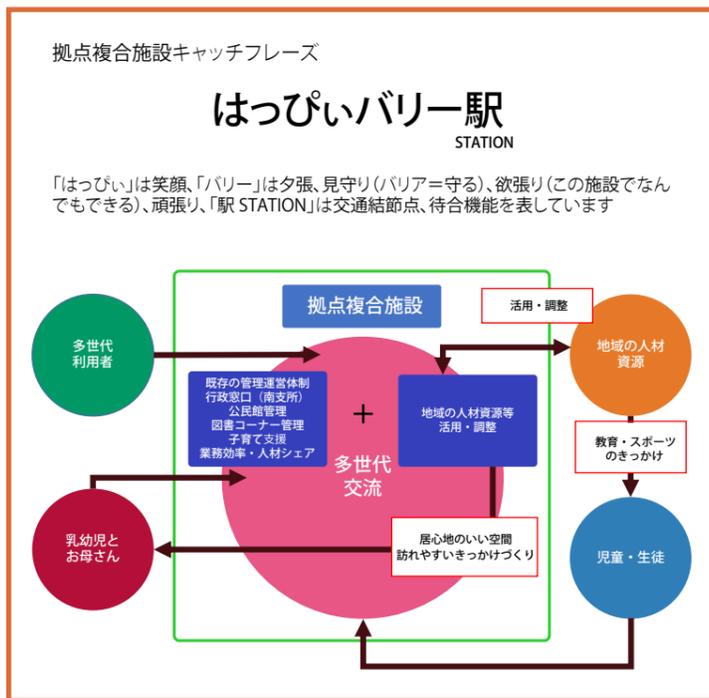


管理運営の考え方

施設機能の考え方



①行政機能	約 120~170 m ²
②公民館機能	約 340~390 m ²
③図書機能	約 400~450 m ²
④交通結節機能	約 250~300 m ²
⑤児童館的機能	約 60 m ²
⑥子育て支援機能	約 130 m ²
+	
共用・管理	約 500 m ²
緑地公園 (屋外空間)	
合計	約 1800~2000 m²

○管理運営方針

拠点複合施設では、子どもたちの基礎学力の低下が課題であるため「学習の習慣化」、バス通学や自家用車での送迎などによる「歩く機会の減少」や学校の体育以外で「運動する機会がない」などの問題解決に向けて、学習・運動の「きっかけづくり」を目標とし、「チャレンジとその成果の見える化」を目指して、数値目標を設けて自己達成感を育む事業を実施していきます。また、子育て支援として幼児を抱えるお母さんたちが使いやすく、居心地のいい空間、環境づくりを目指し、イベントなどの開催により施設に来るきっかけづくりを行い、子育て世代同士・多世代での交流や情報交換を促進していきます。

管理運営体制としては、既存の体制を活かしつつ、人材のシェアなどで業務の効率化を図るとともに、先に述べた新たな事業を実施するため、地域の人材等を積極的に活用することを目標とし、その活用・調整を行う体制づくりを行っていきます。

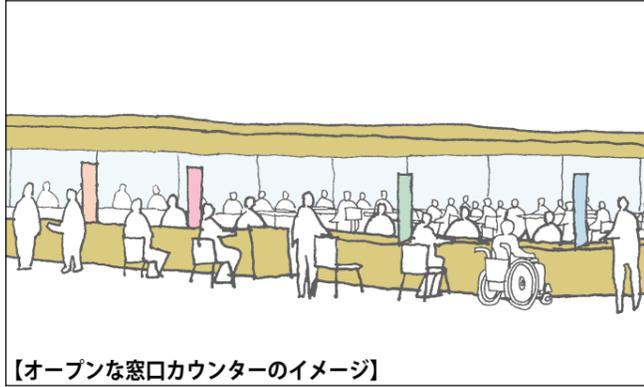
夕張市清水沢都市拠点複合施設建設基本計画

【概要版】

平成29年3月
夕張市

●視認性の良い安心な受付機能

- ・利用者にとってわかりやすい配置
- ・館内を見渡せるオープンな窓口カウンター
- ・プライバシーに配慮した会議室兼相談室



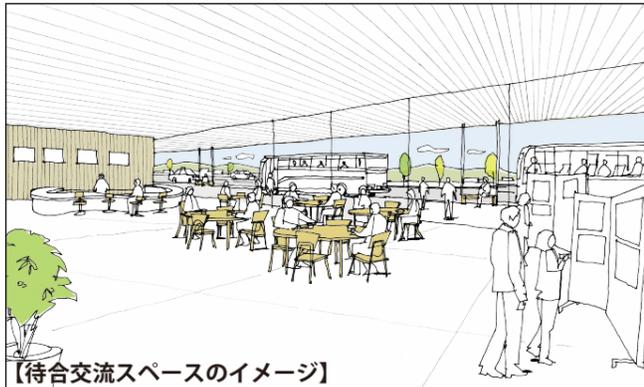
【オープンな窓口カウンターのイメージ】

●市民のための情報展示コーナー

- ・市内のイベント情報や施設利用状況を発信
- ・必要な図書を検索できるブラウジング機能
- ・学生やサークルの作品展示、個展の開催

●多世代が集まる開放的な待合交流スペース

- ・外部へ視線が通るガラス張りの空間
- ・多世代の交流を促すさまざまな居場所づくり
- ・家具や間仕切りで可変できるフレキシビリティを確保



【待合交流スペースのイメージ】

●さまざまな利用に対応できる多目的室

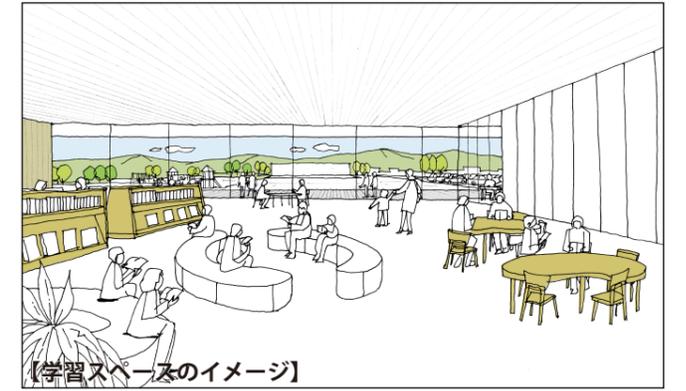
- ・サークル利用や会議、研修など主にイス座形式の利用を想定
- ・可動間仕切りにより大人数利用にも対応
- ・将来の機能変化に対応できるフレキシブルな設え

●子育て世代が集まる乳幼児スペース

- ・育児教室や乳幼児健診に対応
- ・親子で利用できる快適で安心安全な空間
- ・上足ゾーンとし、サークル活動などの利用も想定

●集中して勉強ができる学習スペース

- ・学習のきっかけをつくる空間
- ・静かに集中できる環境づくり
- ・読書や調べ物がしやすいレイアウト



【学習スペースのイメージ】

●合唱やバンド活動ができる防音室

- ・適切な遮音/吸音性能の確保
- ・ダンスなど音の出る運動も考慮したスペースを確保
- ・会議室としても利用可能

●スポーツと発表鑑賞のための多目的ホール

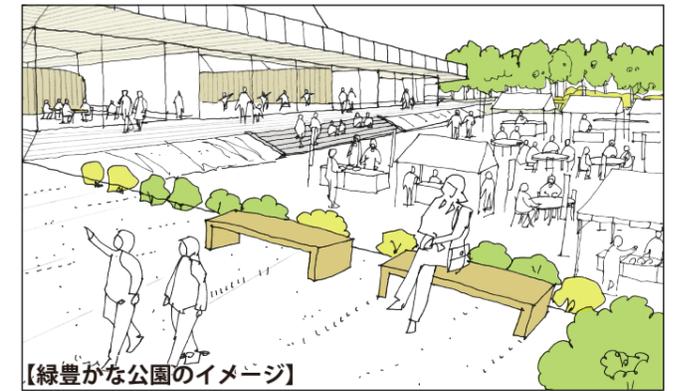
- ・可動席としてフレキシブルな利用を想定
- ・舞台発表のためのステージ及び控室を確保
- ・平常時はオープンで一体的な利用が可能

●オープンな図書コーナー

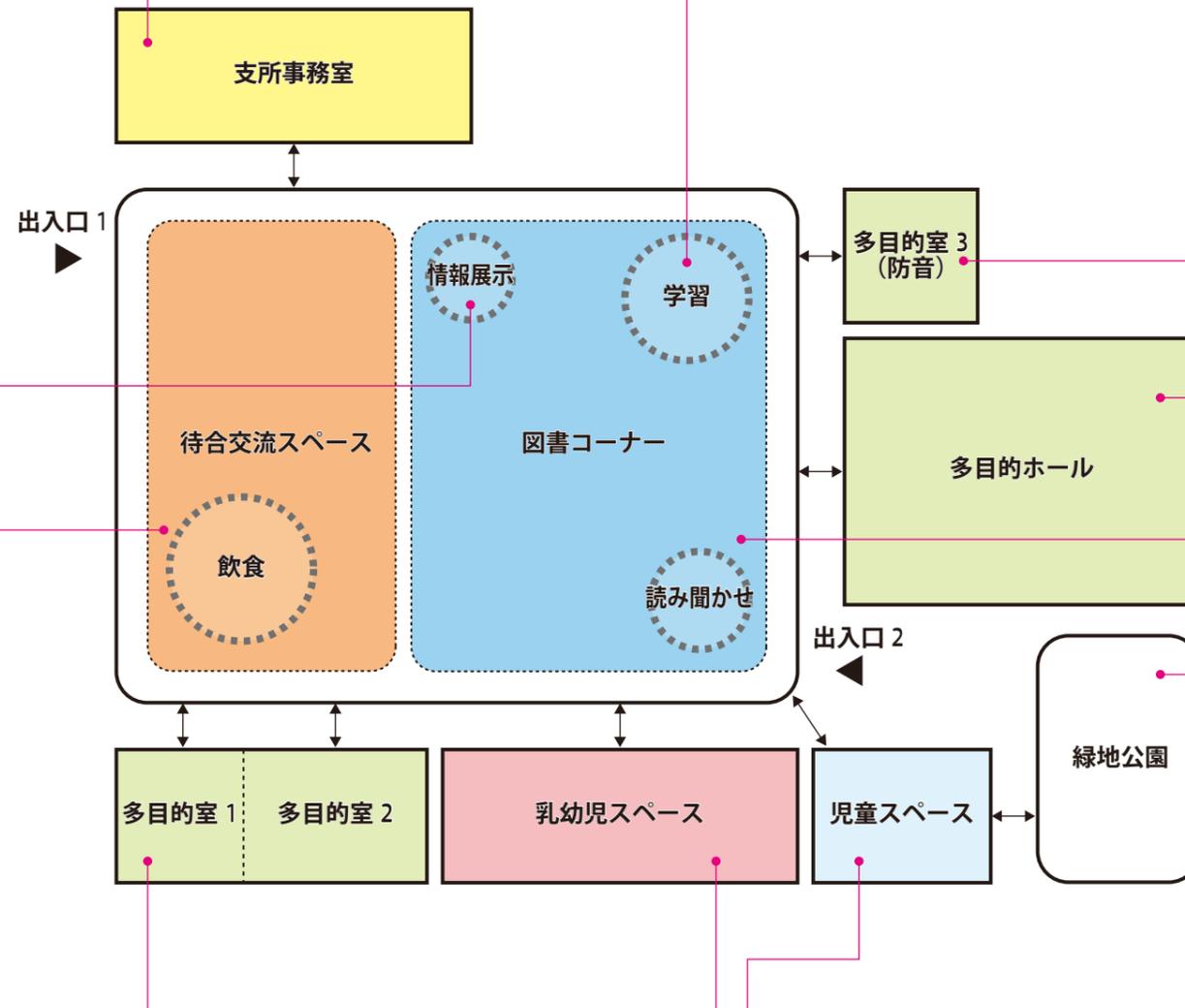
- ・視線が通る開放的な空間
- ・子どもや高齢者に配慮したゆとりある書架計画
- ・郷土図書の充実など他の図書館と差別化

●緑豊かな憩いの緑地公園

- ・子どもの遊び場として地域に開放
- ・ベンチや遊具を整備し、親子で楽しむ公園
- ・日当たりの良い南向きの配置



【緑豊かな公園のイメージ】



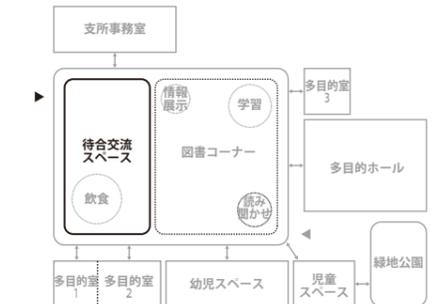
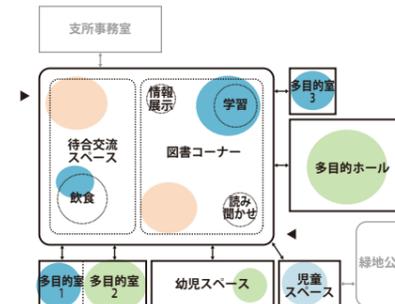
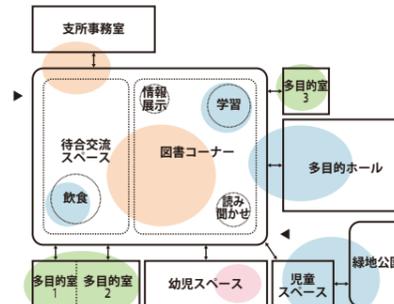
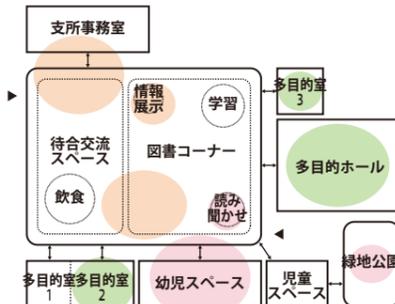
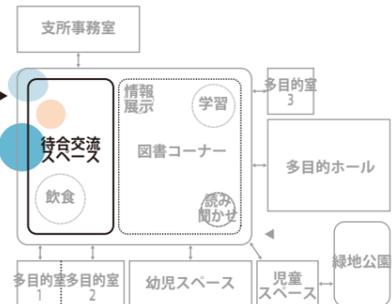
<7:00-8:45>

<8:45-12:00>

<12:00-17:30>

<17:30-21:00>

<21:00->



■タイムテーブルに応じた空間利用イメージ

■：一般大人 ■：サークル利用 ■：乳幼児（子育て世代） ■：児童（小学生） ■：中学生